

### Ⅲ その他の漁業

本県のその他の漁業には籠と突き等による漁業があるが、他の釣り漁業、網漁業と比較して経営体も少なく、盛んでない。籠漁業は主にカニ、魚を対象とし、カニ籠はタイワンガザミを主目的として20～30隻が内湾域で操業しており、カニ刺網と競合あるいは併用の形で営まれている。アサヒガニ網（リング網）漁業も地域によってみられるが、糸満市の2業体を除いて盛んでない。魚籠は潜水器漁業的であること、最近ほこ突き電灯潜り漁業者が増えたことによる影響で漁獲量が少なくなったこと等、魚籠漁業者は減少傾向にある。この漁法の盛んなのは石垣島と沖縄島北部地域である。突き漁業は日中ほこ突きとしてリーフ魚を対象とするのが各地にみられる。漁業としての活発さはない。この漁業では名護市のクジラ、イルカ突きとサワラワクチャーによるサワラのモリ突きが代表的と云えるが、これも特色ある漁法であるが季節的漁法で漁業としては不安定である。

#### 1 籠 漁 業

本県における籠漁業の発祥は定かでないが、既に明治45年頃には漁業として行われていたようである。この頃は主として魚（主にアイゴ類）を対象として長方形の木枠にゲットウの繊維を網目状に結節してかぶせ、次いでアダンの木根、竹の表皮部分を縦横に組合わせて使うようになった。昭和15、16年から現用漁具構造で丸型の竹籠がテールという名で普及した。この竹籠はごく最近まで常用されていたが、次第に鉄筋、番線を枠とし、網には14～16番線、ナイロン網、ネトロン（プラスチック製）網を使うようになった。漁法は、魚を対象とするものは籠は直径130～175 cmと比較的大きく、1個ごとに定置漁具的性能を有し、さんご礁域の水深30 m以浅で主として潜水器を使って設置操業している。カニ、貝を対象とするものは、漁具（籠）は小型で主として延縄式でいずれも内湾、さんご礁域の水深30 m以浅で3トン未満（サバニを含む）で1～2人で操業している。籠漁業の着業数は、変動が大きく、魚籠が20～30、カニ籠15～20、貝（バイ）籠1～3である。魚籠は石垣島と沖縄島北部域に多く見られ、カニ籠は内湾に面した中城湾、金武湾、羽地内海沿岸の漁協に多く見られる。貝（バイ）籠は中城湾、金武湾域で見られるが主たる漁場は中城湾内である。なおアサヒガニ網（リング網）は漁具が簡単に作れることから多くの地域にみられるが、漁業として継続できないこともあって単発的操業である。現在は沖縄島南部周辺に2～5業者が兼業を持って操業している。

(1) カニ籠 ..... 佐敷中城漁業協同組合

佐敷・中城漁協所属船でカニ（主としてタイワンガザミ）を対象とする漁具は刺網とカゴがある。刺網漁業者は5人、カニ籠を使う漁業者は6人いて、籠は佐敷町に刺網は佐敷町と中城村でそれぞれ周年操業を行っている。ここで示すのは佐敷町馬天で操業しているものの紹介である。

A 漁 具

(イ) 漁具の一般構成図 (図1-1)

a 見取図

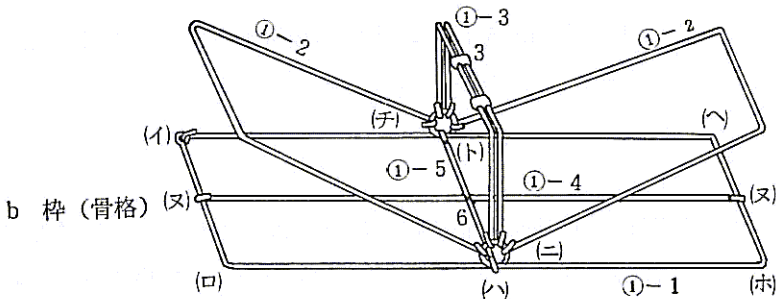
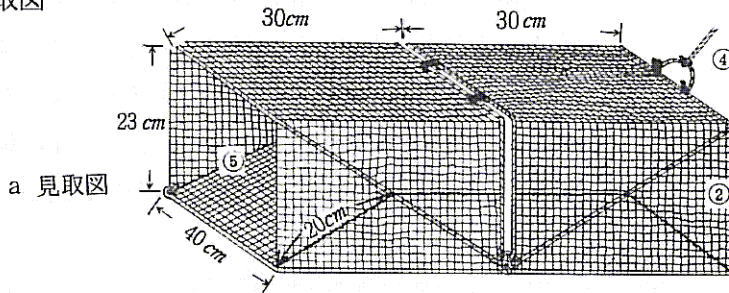


図1-1 漁具の一般構成図

(ロ) 漁具材料

- ① 枠…番線5% (ビニール被覆) ①-1 225 cm×1本
  - ①-2 120 cm×2本    ①-3 92 cm×2本    ①-4 68 cm×1本
  - ①-5 48 cm×1本
- ② 網地……………ポリエチレン3,000デニール、1本、9%目
  - 126 cm×60 cm 1枚    40 cm×20 cm 4枚
- ③ 開口部止め……プラスチック製、2個
- ④ 枝 縄……………クレモナ、またはポリエチレン 4% 1 m

- ⑤ 餌かけ……………銅線 2 % (ビニール被覆) 又はポリエチレン網袋
- ⑥ 幹 縄……………クレモナ 6 % 650 m
- ⑦ 浮子縄……………pp 6 %、1 丸 (200 m)
- ⑧ スナッチフック (約40個)

(イ) 漁具の仕立て方

- a 枠組み……先端に輪①を作った被覆番線を40cm、⊙で直角に折り曲げ、次いで30cm、⊙の所で直径3cmぐらいの輪②を作り、ついで30cm⊙の所で直角に折り曲げ、また40cm⊙の所で直角に折り曲げる。さらに30cm⊙の所で直径3cmぐらいの輪③を作り30cm⊙のばして後端を先端の輪①にかけて止める (①-1)、68cmの同じ太さの番線を①-1の両端中央⊗にかけて止める。(1-4) 44cmの番線を①-1の2つの輪 (⊙⊗) に両端をかけて止め①-4に針金又は糸で止める (①-5)、①-1の輪 (⊙⊗の中に①-2 (2本) を動かせるようにひっかけ、同じく①-3 (2本) をひっかける。
- b 網の取りつけ……126cm×60cmの網地を枠にかぶせ、各枠に糸で止める。漁獲物の取り出し口 (籠の折りたたみの開口部) を切る。ついで両側の入口⑤を作る。入口の後端より①-3まで網地の1目より入口のつっぱりを作る。

B 漁 法

折りたたみ開閉式の籠で作業前に餌がけ (又は袋入れ) して、漁獲物取り出し口は閉じておく。籠の枝縄にはスナッチフックがついていて投縄 (籠) 時に幹縄の15mマークにフックがけして入れて行く。1日1回作業で、朝漁具を入れて夕方揚げる。または夕方入れて翌朝揚げる方法もあるが普通、朝入れて夕方揚げる。水深は1m~20mの砂、砂泥質のところ作業する。水深が深いところでは船尾から投入し、揚げるときは船を後進しながら船尾で行う。水深が浅いところでは満潮時に船尾から投入し、干潮時に船を使わないで海に入って手揚げする。水深にかかわらず手揚げする。餌はマグロ等の頭、雑魚の切身、ニワトリの内臓等。

C 漁期、漁場、漁獲物

漁期は周年で、タイワンガザミは7~9月が盛漁期、ノコギリガザミは5~6月が盛漁期、漁場は中城湾内で、主に馬天、佐敷地先の底質が砂、砂泥のところ水

深は1 mから15~20 mまでのところ、漁獲物はタイワンガザミ、ノコギリガザミ、コトヒキ、ハタ類（幼魚）、ウスイロバイ、カレイ類。

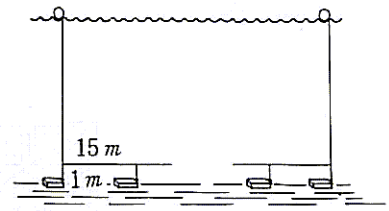


図1-2 操業見取図

(2) カニ籠（タイワンガザミ）…………… 石川市漁業協同組合

石川市漁協所属で、カニ専門者は2~3人いて、殆んどカニ刺網との併用兼業である。海藻付着量の関係で普通冬~春先にかけては海藻量が多いことから、刺網はひかえ籠を使い、春~秋にかけては海藻付着量が少ないこともあって刺網を使う。ここで示すのは1.8トンのボートに20馬力のエンジンを取りつけ1人乗って操業しているカニ専門者のものの紹介である。

A 漁 具

(1) 操業見取図

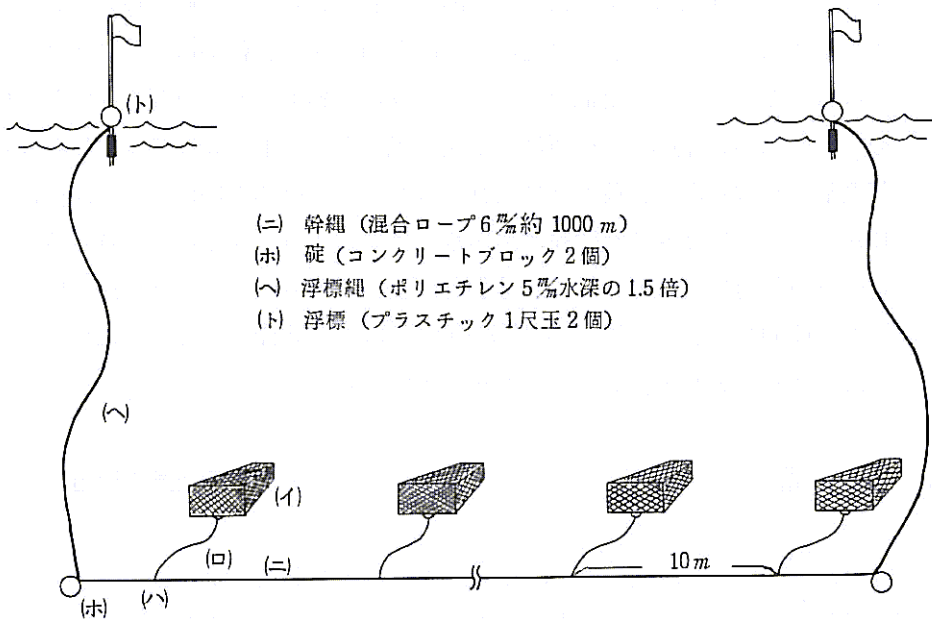


図1-1 操業見取図

(ロ) 構成図 (図 1-2)

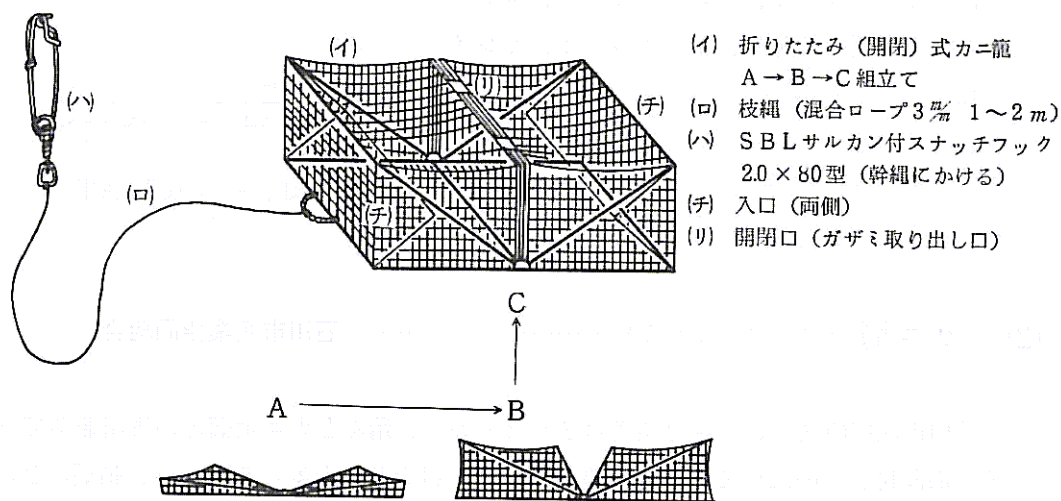


図 1-2 漁具の一般構成図

## B 漁 法

底延縄方式で夕方入れて翌早朝揚げる。出港前に餌 (雑魚の切り身、イワシ等) を袋入れして開閉口はあけたままで漁場に着いたら浮標一碇を投入し、風上から風下へ流れ、あるいは船を微速にし、開閉口を閉じ、幹縄にフックがけして 10m 間隔に投籠して行く。使用籠数は 100 ~ 150 個で約 30 分 ~ 1 時間を要する、地先のため入れ終わったら帰港する。揚籠は翌早朝で風下から風上へ向けて揚げる。カニはその都度籠から取り出し、荷カゴに入れ籠はたたんで操業を続ける。揚籠には水深 5 ~ 15m のところで 2 ~ 4 時間程度かかる。操業は 1 日 1 回で日帰りする。普通カニ刺網との併用で 11 月 ~ 3 月、4 月までは主としてカニ籠を使う。漁場はカニ刺網漁場と大体同じで、金武湾内の石川から具志川よりの水深 5 ~ 15m の海域である。漁獲物はタイワンガザミ、ジャノメガザミ等である。

### (3) 魚 籠 (タマン他) ..... 国頭漁業協同組合

国頭漁協所属の魚籠漁業者は昭和 58 年まで専業 6 兼業 2 の 8 業者がいたが昭和 60 年には転業、兼業していた漁業 (曳縄等) への努力が大きくなったこと等で 3 業者に減少している。ここで示す漁法は専門的に操業している漁業者のものである。なお同

漁具、漁法は本部町の新里地区、石垣市の新川地区、宮古西原地区が盛んである。

## A 漁 具

材料は網はネトロンZ 3号、目合は1脚3.8cm、枠(骨格)に銅線4.8~6.4%を使っている。大きさは底長径127cm、籠口のろう斗は別に作ってはめ込み、糸で結止する。

(イ) 構成図(図1-1)

(ロ) 漁具の仕様(表1-1)

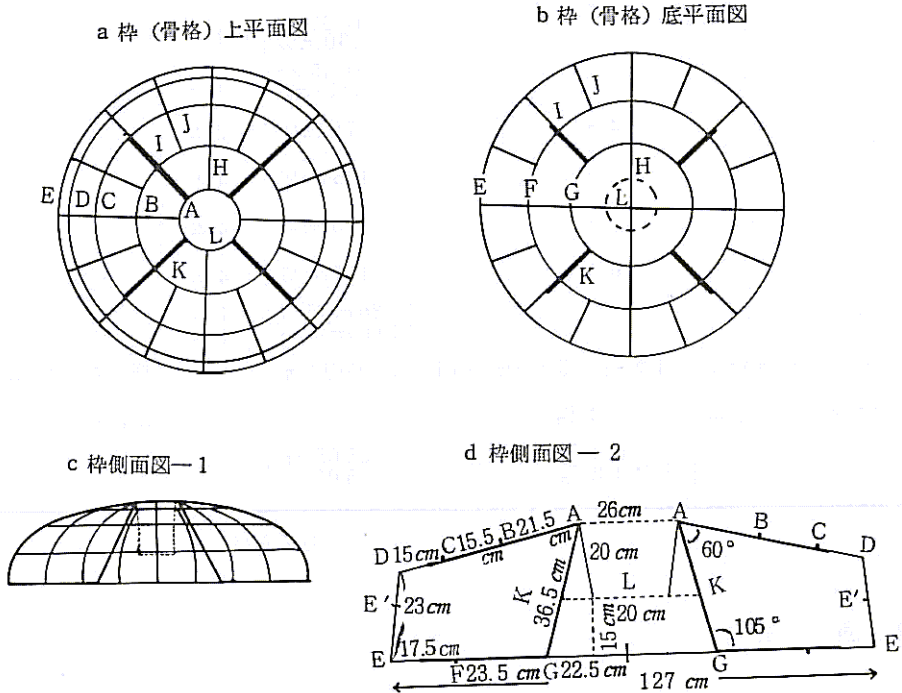


図1-1 漁具の構成図

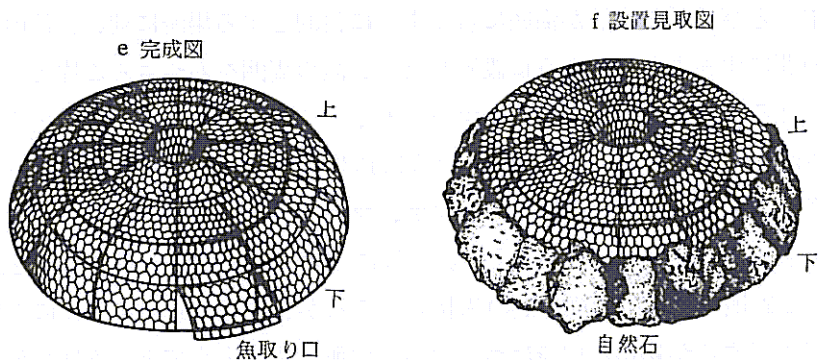


表1-1 漁具の仕様(1籠分)

符号	名称	材質	規格、寸法	長さ	本数 (数量)	備考
A	骨組み (枠)	銅	6.4 $\frac{m}{m}$	直径(D) 26 cm 90 cm切	1本	DとE間に1本補充
B	"	"	"	D 68 cm 225 cm切	1本	
C	"	"	"	D 98 cm 320 cm切	1本	
D	"	"	"	D 126 cm 396 cm切	1本	
E	"	"	"	D 127 cm 410 cm切	1本	
E <sup>1</sup>	"	"	"	"	1本	
F	"	"	"	D 92 cm 300 cm切	1本	
G	"	"	"	D 45 cm 150 cm切	1本	
H	"	"	4.8 $\frac{m}{m}$	275 cm切	2本	
I	"	"	"	135 cm切	4本	
J	"	"	"	90 cm切	4本	
K	"	"	6.4 $\frac{m}{m}$	110 cm切	4本	
L	"	"	"	約 86 cm切(上) 約 68 cm切(下)	1本 1本	
M	網	ポリエチレン	1脚長 3.8 cm	幅 130cm 長約 4 m		
N	結び糸	スパン糸	4 $\frac{m}{m}$			結着用
合計			銅線 6.4 $\frac{m}{m}$ 4.8 $\frac{m}{m}$	25.65 m 5.00 m		

D…直径

## B 漁法

船内外機付ポート(又はサバニ)による日帰り操業である。漁場は地先沿岸域の水深30m以浅で昼間籠は設置する。場所を選定したら籠を1個投げ込み、同時に海中にとびこんで、籠が海底に着くまでに目的とする場所に運び、籠の底面と海底との間にすきまがないように設置した後、籠の周囲を石やさんご片等でおおって安定させる。これは魚が入網しやすいこと、サメ、ウツボ等の食害防止と入網魚をおちつかせるためである(出来るだけ入口以外は石等でおおった方がよい)。次いで用意した餌(イワシの輪切り、カツオ、マグロの頭等1~5kg)を陥穽口(ろう斗)から籠の中に入れ設置を終える。1隻に1~2人乗り5~15個の籠を設置する。さんご礁地帯(さんご礁の間の溝状のところか、さんご礁の下縁)に1個ずつ独立して設置するが殆んど標識はつけない。場所確認は山立てと、海底地形認識による。

ごく浅いところ以外は潜水器を使う。揚げるのは翌日の早朝で、餌を設置した籠の分だけ準備し出港する。籠設置場所へ着いたら潜水して魚の入網を確かめ、数尾の時はモリで突いて漁獲し、揚籠の必要な時（入網量が多い、移動させる。破損等）はポリプロピレン（pp）ロープの先には針をつけて籠をひっかけ、船に仲間がいれば合図して引きあげさせ、不在の時はロープを浮かしておいて何個かを確認後、浮上して船に引きあげる。餌は一般に設置したまま入れる。漁獲物は船内活魚槽に入れるか氷蔵にする。同一場所で2～5日漁獲が少ない場合はそのつど籠の移動をする。隔日揚げ（漁獲）する時もある。

### C 漁期、漁場、漁獲物等

漁場は、国頭から大宜味の沿岸のさんご礁域で水深約3m～30mのところ。漁期は周年、5～10月が盛漁期である。漁獲物は、クチナジ（いそふえふき）、ヤキー（あまみふえふき）、ユダヤミーバイ（まだらはた）、タマン（はまふえふき）、ナガジューミーバイ（ばらはた）、ミミジャー（ヒメフエダイ）、アカジン（すじあら）、イラブチ（ぶだい類）たこ等である。

## (4) 魚籠 ..... 宜野座村漁業組合

漢那地区で、電灯潜り漁業（スキューバ使用）、固定式底刺網漁業との併用で操業されているもので、1.5トンのサバニに1～2人乗って行っているものの紹介である。

### A 漁具

#### (イ) 構成図（図1-1）

### B 漁法

金網籠8～9個をさんご礁の間で魚道とみなされるややくぼんだ場所に沈設する。籠の周囲にさんご片をかぶせて籠を隠すようにする。操業はスキューバダイビングで行い、沈設水深は5m～20m程度のところ。餌はカツオの頭が最も良いが、入手困難なことから、冷凍イワシ、ムロ等を数尾入れる。煮たサツマイモを使う時もある。籠は約7日～10日沈設したままで1日～3日程度に見まわりし、入網魚は開閉口の魚取り口から、モリで突いたり引っ掛け針にかけて漁獲する。入網が少ない（2～3kg程度）時はその都度移動沈設する。餌の補給は見まわり時に行い、おとり魚または誘集魚と称し、1尾程度は籠内に生かしたまま置いておく時もある。漁



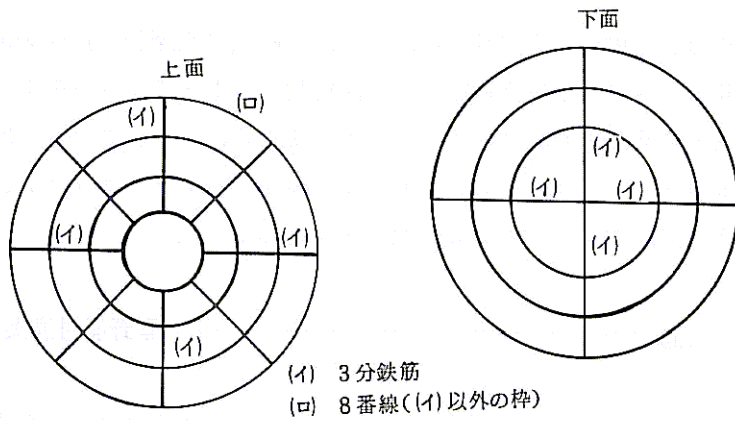
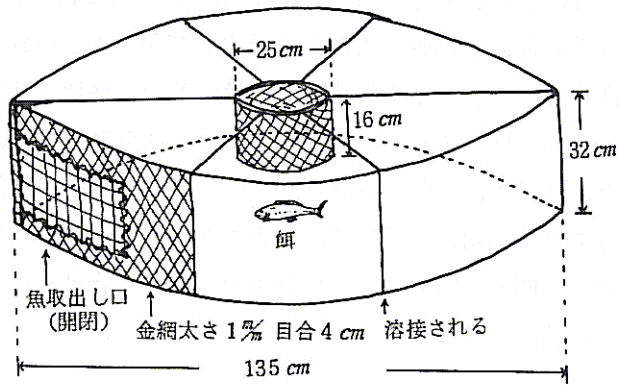


図 1 - 1 漁具の一般構成図

場は漢那地先から金武湾のさんご礁地帯で漁期は周年である。漁獲物は、タマン（はまふえふき）、エーグァー（あいご類）、イラブチ（ぶだい類）、ニザダイ類である。

(5) バイ籠 ..... 与那原町漁業協同組合

本県のバイ籠漁業は59年頃まで石川市漁協と与那原町漁協で操業していたが、現在は与那原町1経営体だけで、中城湾を主漁場として操業している。

A 漁 具

(イ) 一般構成図 (図 1 - 1)

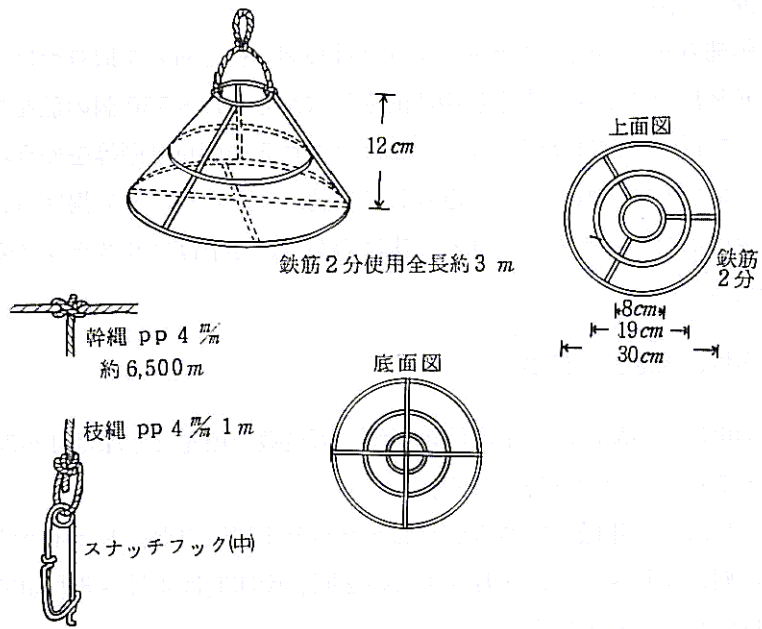


図 1 - 1 漁具の一般構成図

(ロ) 漁具の仕立て方

2分鉄筋で図 1 - 1 のように枠を溶接により製作し、それに上辺 26cm、底辺 95cm、高さ約 15cm の台形のサランネットを枠の側面にまわして糸で枠に結着する。次いで直径 32~33cm の円形の同ネットを底面に結着する。さらに PP 4 mm ロープでスナッチフックがけつぼを作る。

(ハ) 操業見取図 (図 1 - 2)

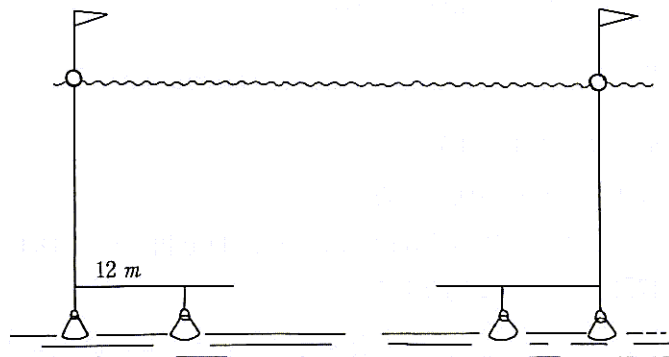


図 1 - 2 操業見取図

## B 漁 法

延縄方式で幹縄にスナッチフック付枝縄（約1m）を取りつけておき、約3トンのFRP船に1～2人乗り中速前進しながら500～550個の籠をフックがけして投入して行く。碇は使用しない。餌はマグロその他魚の頭等を使う。操業には風向、潮流は念頭に入れない。夕方入れて翌朝ベビーホーラーで揚げる、なお入れ始めと最後にボンデンをとりつける（旗は赤か黒、浮子はプラスチックの1尺玉を1個づつ使う）

## C 漁場、漁期、漁獲物

漁場は、中城湾内で主漁場は当添、板良敷の地先で水深は4～20m（主要水深は4～7m）の砂泥質帯である。

漁期は、周年操業であるがおおかたパヤオ利用曳縄、トビイカ釣りと兼業する。盛漁期は4月～6月、10月～1月の2回、産卵期は4月～8月頃で、この時期には何日かおきに操業する。

漁獲物は、ウスイロバイ、ヘコミマクラ、その他の貝類で、バイ貝は生かして出荷する。

## (6) アサヒガニ網 ..... 糸満漁業協同組合

アサヒガニの生息は周辺沿岸域の水深約15～80mの礫や岩礁周辺の砂質帯には大体確認できるが生息密度等から漁場形成は大きな広がりを見せない。本県には漁具が簡単に作れることもあって漁協によって単発的な操業がみられるが、漁業としては、糸満漁協所属の2経営体が専門的である。

### A 漁 具

(イ) 一般構成図（図1-1）

(ロ) 漁具（リング網）の仕立て方

- ① ナイロン網地（10本7.5節（57%）、100掛1反（151.5m））を幅14目、長さ17目の大きさに裁断する。
- ② 枠（骨格）として、ビニールでコーティングした径4%（内線10番線使用）番線1巻（25m～50m）を直径50cmのリングになるよう（結着分を含めて長さ約160cm）必要分切り、両端を2穴トヨロック（2cm）に入れてハンドプレッサーで固定する。

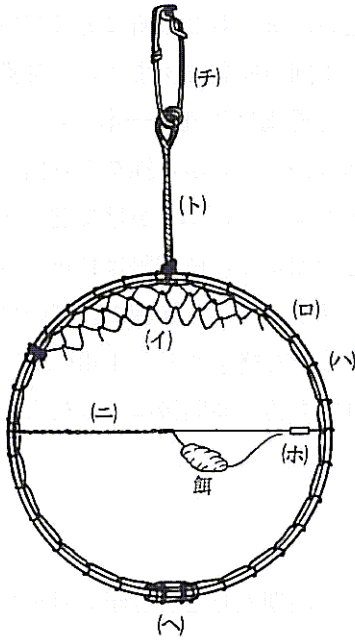


図1-1 漁具の一般構成図

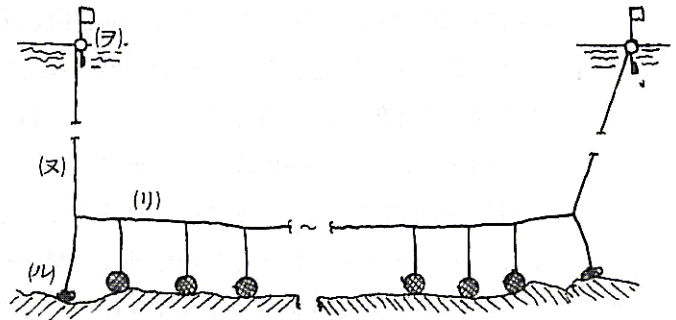


図1-2 操業見取図

- ③ 餌通し用ステンレス針金20番線を約1mに切り、二重にして枠（リング）の直径に張り、一端はゴム管を通して単線で止め、一端は中心まで二重にしてコイルする。
- ④ 切った網地の長さ17目の中心8.5目をリングの中心線として縁どり糸（スパンナイロン12本合せ）で縁の網目を通してリングにかけ止めする。
- ⑤ スナッチフックを枝縄（25cm程度）に取りつければ仕立て上る。

(ハ) 操業見取図（図1-2）

## B 漁 法

### (イ) 操業方法

餌は冷凍ムロ、サバ、サメ肉、マグロの血合肉、カジキの皮等を適当な大きさに切り、図1-1のようにステンレス針金に刺し、ゴム管に先をさし込んで固定する。操業は早朝、港内で餌付けし、8時頃出港する。夜間は、漁獲が殆んど期待できないので昼間だけ操業する。日帰りか、2日かかりである。

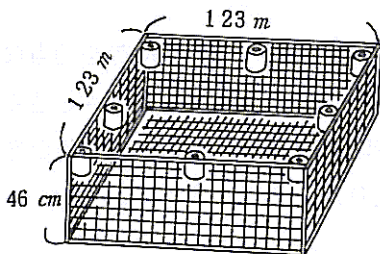
### (ロ) 投網及び揚網

操業場所により所持網は400枚で、1組100枚を単位とし、漁場が狭く点在する

ような海域では3ヶ所～4ヶ所に分けて延べる。広い場所でも2ヶ所に分けて投網する。投網後約2時間で揚網を始め、1漁場では1回の操業ですます。(乱獲防止にもなる)漁船は2.8トンで操業は船首甲板で行い、浮標縄は幹縄と一本からなり縄は全てドラムに巻きとる。投網の時浮標を投げ込み、ドラムから縄をとり出して水深の約2倍のところでスナッチフック付碇(半ブロック)網をかけて碇を入れ、順次リング網を幹縄にスナッチフックがけして投網する。枝間隔は15mで結び目をつくってスナッチフックのずれを防ぐ。予定の網を入れたら碇網を幹縄のツボにスナッチフックがけして浮標縄、浮標を投じて投網を終了する。1組(100枚)の投網時間は約30分、2～4ヶ所に分けて入れても約2時間後には最初入れた網から揚げる。揚網に約40分を要する。

### C 漁場、漁期、漁獲物

①漁期は4～8月は産卵期で操業せず、8月1日から漁期入りし、翌年3月末まで操業する。8月～1月が盛期。②漁場は、水深15～80mまでの範囲で確認できるが50～80mが一般的漁場で、特に60～70mが漁獲は多い。岩場近くの砂質帯(シラマー)、貝がら、砂礫地帯が漁場として良く、特に岩場に近い砂地が漁獲量は多い。泥、砂泥帯は良くない。夜間、早朝は漁獲は殆んどない。漁場利用は400枚の網を1漁場、1回操業を最大限とし、乱獲を自しゅくし、1ヶ月後に同一漁場は利用する。③漁獲物はアサヒガニ、ゾウリエビ、セミエビ、ホネガイ等で、アサヒガニは、船の活魚艙に入れて自然に海水を船底からとり入れて生かす。翌日出荷の時は図2-1の蓄養生簀に移す。漁獲量は1日平均20Kg、多い時は約100Kgである。県外出荷は、航空便で行い、8Kg入りの発泡スチロール魚函にカンナクズ(水気がある)を敷き、生きたアサヒガニを詰め、冷凍で約30分(冷蔵では約1時間)冷やした後(冬眠状態にする)蓋をして、ガムテープで封をし、出荷する。(出荷先は主として九州方面)、出荷生残率は80～90%/3～5時間。



枠：塩ビ管径 2.3 cm  
 網：ポリエチレン  
 ネットロン網  
 目合内1辺6%  
 浮子：発泡スチロール  
 L18cm D15cm 8個



図2-1 アサヒガニ生簀網

表 1 - 1 漁具の仕様

符号	名 称	材 質	大きさ又は太さ	目 及び規格	掛目	長さ又は重さ	仕立上りの長さ、数量	備 考	
図 一 一	イ	網	ナイロン	10本	7.5 節	14目	17目	1枚	総目数 457 目 ビニール被覆 4% 10番線使用 50cmの二重(餌かけ用) PGロープ、輪網の間隔 15 m
	ロ	枠	鉄	4%			160 cm	輪直径50cm 1本	
	ハ	縁どり糸	スパンナイロン	12本			約 2 m ~2.2 m	1本	
	ニ	針 金	ステンレス 20番線	0.88%			約 1 m	1本	
	ホ	ゴム管	軟質ゴム	外径 4%			3 cm	1個	
	ヘ	ロック	銅	ダブル ホール			2 cm	1個	
	ト	枝 縄	ポリプロピレン	4%			25 cm	1本	
チ	スナッチ フック	鋼		$\frac{m}{m} \times \frac{m}{m}$ 2.6 × 100			1個		
図 一 二	リ	幹 縄	ポリプロピレン	4%			1,500~ 2,000 m	PGロープ	
	ヌ	浮 標 縄	"	"			2本	" 水深の約 2 倍	
	ル	碇	コンクリート ブロックか自 然石				2~3 Kg	2個	半ブロック
	ヲ	浮 標	発泡 スチロール					2個	旗は赤か黒 竿はファイバー